

題字：石野 華鳳
(書家 小松市出身)

更生保護
くわい・のくわい

小松能美

第13号

2022年(中秋号)



会長 元山 洋



誰一人取り残さない平和で、
安全・安心な国・地域づくりを！

八月の集中豪雨により被災された方々にお見舞申し上げます。

コロナ禍で心配された「第七十二回社会を明るくする運動」期間中、各種活動が昨年度よりたくさん実施でき、とても良かったです。皆さま方のご尽力の賜です。感謝申し上げます。

ここ二年間できなかつた「JR四駅街頭キャンペーン」では、保護司会・更生保護女性会・BBS会メンバー総勢五十名以上の参加で、通勤・通学者に犯罪や非行防止の呼びかけと啓発グッズの配布を行いました。三月五日に行われた「更生保護団体との連携」自主研修がこの取り組みの大きな原動力になつていると思います。まさに継続は力なりです。

また、三月末に行つたアンケート調査をもとに、今年度は新たにのぼり旗を増やし、各市役所・役場・庁舎に啓発ブースを設け、今まで以上に広く地域住民に啓発できることも大きな成果の一つです。皆さま方から寄せられたアイデア・意見を大切にしながら、今後もできることから実施していくます。ご協力お願いいたします。

現在、長引くコロナ禍での様々な問題、物価高騰による生活困窮、差別・偏見などの人権侵害、靈感商法等による被害など多くの人は「生きづらさ」を抱えています。「誰一人取り残さない平和で、命と暮らしを守られる安全・安心な国・地域づくり」を国・政府を先頭に、全国民で進めていく必要があります強まっています。小松能美保護区保護司会もその一員として、お互いのつながりを強め、知恵を出し合つて有効な活動を進めていきましょう。

しかし、「社明運動小松能美市町民の集い」は七月二十三日開催予定で準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、講師が来られなくなり中止となりました。そのほか、六月の薬物乱用防止キャンペーントースト研究会、恒例の一泊研修も中止としました。

令和四年度 保護区定期総会

本年度の定期総会は、五月十九日(木)午後一時三十分から小松市第一地区(コミュニティセンター)で会員五十四名中二十七名(委任状二十通)の出席を得て、予定通り開催しました。令和三年度事業報告、会計決算並びに令和四年度事業計画、会計予算など全議案が承認されました。当日は、上岡金沢保護観察所長、越田小松市副市長、番匠能美市副市長の出席をいただき、川北町長のメッセージが寄せられました。

今年度の主な事業としては、七月の社明月間中の総理大臣メッセージ伝達、学校との連携事業での訪問、作文コンテストへの作品応募依頼、有名作家チャリティ作品展、JR四駅街頭キャンペーンの実施、あいさつ運動への参加、社会貢献活動、視察研修などがありますが、コロナ禍での計画であり、可能な限り実施していく予定となりました。

特に、昨年度開催できなかつた「社明運動小松能美市町民の集い」を七月月中に是非開催したく事業に入れました。

・・これまでの活動報告・・

社明運動月間の七月一日には、小松市、能美市、川北町へ支部ごとに更生保護女性会の方々と共に総理大臣メッセージ伝達を行いました。

また、今年は各市・町庁舎の一角に啓発ブースを設置していくことで、来庁者を掲げ、啓発用品や社明のチラシ、ホゴちゃん折り紙などを置くことで、来庁者への啓発に大きな成果を上げることができました。例年通り公共施設には、ポスターの掲示、チラシを配布し、小・中学校へ訪問してティッシュ・キズバンなどの啓発用品を届けました。さらに期間中は、テレビ小松で社明CM動画三十秒を七十回放映しました。



着任の御挨拶



金沢保護観察所
所長 上岡 靖之

小松能美保護区においても現員五十四名（定員六十二名）のうち、今後十年間で三十二名（約六割）が定年を迎えるにあたります。そこで勘案すれば、現下喫緊の課題と言わざるを得ません。

適任者確保に万能の秘策はありませんが、保護司候補者検討協議会のより小さい区域ごとの開催、地域の教育や行政や各種職能団体への働き掛け、自宅以外の面接場所の確保による環境整備等、各地域の実情に合わせて創意工夫していただいているところです。

もとより適任者の確保は、国と保護觀察所が率先して取り組むべきところ、保護司や更生保護に関心を寄せてくださる皆様にも、「持続可能な保護司制度」の確立に、格段のお力添えをいただきますようお願い申上げます。

保護司の皆様とともに



金沢保護観察所
保護観察官 澄田 由紀子

私は、幸せなことに、地区主任官として小松能美保護区の保護司の皆様と一緒に仕事をする機会に恵まれ、本年で三年目になります。着任の頃からコロナ禍の影響で総会や定例研修等諸行事が次々と中止を余儀なくされ、なかなか保護司の皆様と直接お会いすることができない状況が続いていました。

そんな中、徐々に、総会、定例研修、保護司候補者検討協議会等が開催されるようになり、保護司の皆様と直接お会いする機会も増えました。その時にあいさつを交わしたり、事件のことや近況等を話し合ったりできる時間は貴重で、かけがえのないものとなつております。

今後も保護司の皆様とお会いでできる定例研修をはじめとする機会を楽しみにしています。

引き続き御指導、御鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

感動を絵で表現



チャリティ協力作家
田方 勇

ペタ重ねて描いて、一度は油彩でと思つていきました。結果として最初から、念願の油彩で始めることが出来ました。

最初は色を重ねるのが楽しく、段々物の容、構図、色彩等を考えるようになり、それなりに描けるようになつたと思っていましたが、後で見ると余りにも酷く、欠点だらけで見ることが出来なかつたです。それでも感動しました。

初めて町の夜の絵画教室に、月二回通い始めたのが最初で、小学校、中学校は水彩でいつも只絵の具をペタせるようになりました。

モチーフとしての最初は、旅行先で出会う様々な仮面（魔除け等）に魅了され、この仮面の想いや表情をどのようにキャンバス上で操ることができるか、又、物語的に表現出来るか、迫力が出来るかと描いてきましたが、思うような結果が出ないままとなりました。

その後は、アーティチョークという素晴らしい花に出会い、これだと閃きました。今は想いの花として、アーティチョークと葛藤中です。

田方 勇氏は、平成二十八年から毎年有名作家チャリティ作品展に寄贈されてきました。長年の功績が認められ、昨年度の石川県更生保護功労者顕彰式典において、「社会を明るくるする運動石川県推進委員会委員長感謝状」が贈られました。田方氏は、大会当日、本感謝状受賞者を代表して壇上でお受け取りになられました。これまでのご厚志に感謝申し上げます。

第72回 社会を明るくする運動月間

JR四駅街頭キャンペーン



JR4駅街頭キャンペーン

社明運動の啓発を目的として、七月十一日、栗津・小松・明峰・能美根上のJR四駅で早朝キヤンペーンを行いました。コロナ禍で一年間実施できませんでしたが、今回は啓発資材としてチラシ・ポケットティッシュ・キズバンを一つにまとめて、JR利用者の皆さんに「おはよう」の声かけとともに手渡しました。

啓発資材の折込作業は大変でしたが、非常に効果的な方法法であつたと思います。今回のキヤンペーンにおいても更生保護女性会、BBS会、保護司会の三団体の相互の協力があつてこそ取り組めたと思います。更生保護活動を少しでも知つてもらうためにも、このようなキヤンペーンを行い、地道に汗をかき続けていくことが大切だと思います。

(犯罪予防活動部会 福島 日出夫)

メッセージ伝達



メッセージ伝達式(小松市)



メッセージ伝達式(能美市)



メッセージ伝達式(川北町)

七月一日、小松市・能美市・川北町の庁舎で保護司会と更生保護女性会の役員が市長・町長・議長に総理大臣メッセージを読み上げ、伝達しました。懇談の時間も持りました。また、各市町庁舎に社明運動の懸垂幕を下げ、公共施設や学校にポスターやチラシを配布・懇談し、テレビ小松で社明運動CM動画を放映しました。

今年は各市町庁舎の一角に啓発ブースを設置し、のぼり旗を掲げ、啓発用品やチラシ、ホゴちゃん折り紙などを置き、来庁者への啓発に大きな成果を上げることができました。

第45回 有名作家チャリティ作品展

社会を明るくする運動の一環として、有名作家チャリティ作品展が、七月二十九日～八月一日まで金沢エムザ二階「エムザギャラリー」において開催されました。

本運動の趣旨にご賛同いただいた県内の有名作家に作品を御寄贈いただき、作品は来場者の入札により、その売上金は罪を犯した人々の更生援助や犯罪予防活動に役立てられます。

コロナ禍で、感染対策をとりながら作家の作品を一堂に鑑賞できるとあって、熱心に見入る来場者の姿が見られました。

ご寄付された地元作家の皆様、お世話をされた保護司有志の方々に、厚くお礼申し上げます。



◇書の部	◇絵画の部	【寄贈された方々】(敬称略)	◇工芸の部
都賀田久馬	松村 芳明	八十山和代 東 孝太郎	野村 大仙
		後出 浩二	吉田 敬星
福田	西房 雄二	糠川 德田八十吉	高 権成
樹峰	斎藤 浩二	北村 鶴代	新藤 晋
	敏明 長八	中田 一於	田村 幸生
		米田 和義	吉田 健剛
		北村 中田	高 権成
		中田 国盛	新藤 晋
		米田 浅蔵五十吉	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田
		北村 健剛	高 権成
		中田 一於	新藤 晋
		北村 浮田	田村 吉田
		中田 山中	高 権成
		北村 健剛	新藤 晋
		中田 一於	田村 吉田
		北村 浮田	高 権成
		中田 山中	新藤 晋
		北村 健剛	田村 吉田
		中田 一於	高 権成
		北村 浮田	新藤 晋
		中田 山中	田村 吉田

＊＊＊＊＊ 活動の中から ＊＊＊＊＊

対象者と向き合つて



小松支部東分区
山本 直樹



令和元年十月に保護司を拝命し、早三年が経とうとしています。この間、二名の対象者の方との出会いがありました。私なりに保護観察に際し、決めていたことは、過去の事を詮索せず、終わつてしまつたこととし、今後、本人が前向きに社会復帰できるようにはサポートすることが私に与えられた仕事であると考えました。現在、二人ともアルバイトまた正社員として元気に過ごしているそです。近年、人生百年時代と言われています。対象者には、犯してしまった過ちは猛省を促しつつも立ち直る機会を作つてあげながら、焦らず、気長にこれからも正面から向き合い、併せて自分自身のこれまで見つめ直しながら保護司活動を続けていきたいと思います。



能美支部
石川 和之

令和元年十月に保護司を拝命し、早三年が経とうとしています。この間、二名の対象者の方との出会いがありました。私なりに保護観察に際し、決めていたことは、過去の事を詮索せず、終わつてしまつたこととし、今後、本人が前向きに社会復帰できるようにはサポートすることが私に与えられた仕事であると考えました。現在、二人ともアルバイトまた正社員として元気に過ごしているそです。近年、人生百年時代と言えられています。対象者には、犯してしまった過ちは猛省を促しつつも立ち直る機会を作つてあげながら、焦らず、気長にこれからも正面から向き合い、併せて自分自身のこれまで見つめ直しながら保護司活動を続けていきたいと思います。

昨日の四月、新任保護司の委嘱を受けて一年足らず、「対象者を受け持つて下さい」と保護観察官より突然の連絡が来ました。もちろん初めての担当であり仕事も繁忙期であつたため、自分がどこまで出来るか不安もあり、保護観察官に旧知の新川保護司と複数担当でお願いしました。初回の面接以外はこれまでほとんど私一人で対象者と面接しています。

対象者は対象者の興味のある話題でコミュニケーションをとつていましたが、途中に生活行動指針違反の事故もあり、自分の対応が間違っていないかと思うこともありながら、現在も当初と変わりなく対象者との面接、対象者の保護者との連絡を決められた回数とっています。また、時には保護観察官からの温かい連絡等もあり心強いです。対象者が無事、保護観察を終えるよう、もう少し頑張ります。

各部会報告

総務部会 元山 洋

総務部会はリーダーシップを發揮し、令和四年度総会で承認された重点活動「保護司適任者の安定的確保とスマートな新旧交代」「定例研修の出席率の向上」「地域・住民への啓発活動強化」

「更生保護活動のICT化推進」を関係機関・自治体・関係団体と連携し、積極的に進めています。皆さま方のご協力お願いいたします。

また、各部会・各支部・各分区分がより多くの保護司で、計画的・組織的に会合・事業を進められるよう働きかけ・アドバイス・連絡・調整をしながら支援していきます。

そのために、これまで同様、事務局会・総務部会を定例開催し、十分な協議を通して確認し合ふ。皆さま方への情報提供とホームページの活用を図ります。

研修部会 井上 和代

今年度の研修部会の活動としては、定例研修の準備・進行だけでしたが、今後は、四月に建て替えて新しくなった徳風苑親和寮と金沢少年鑑別所の視察を、十一月に予定しています。

そして、自主研修会の講師の選定など、内容を検討中です。

犯罪予防活動部会 德山 知子

犯罪予防活動部会は全体の部会も出来ずにスタートしましたが、電話や部会員等で連絡を取り合い社明月間に突入しました。七月一日には総理大臣メッセージ伝達を、小松市長・能美市

長・川北町長に伝達致しました。七月十一日にはJR四駅街頭キャンペーンを、コロナ感染者の増え中、五十二名の方々に参加していただきました。今後は、キッズフェスタへの参加・社明作文コンテストの審査などを予定しています。公開ケース研究についても、例年とは違つたりやり方を模索しておりますが、今年度は見合わせる予定です。

協力組織部会 俵 秀雄

令和二年度はコロナ感染防止のため、多くの部会活動が中止を余儀なくされた中、対象者の社会貢献活動はなんとか実施出来ないかとの要請を受け、安宅海岸の清掃活動を行いました。昨

年はすべての活動が制限されたため休止しました。今年度も休止の意見もありましたが、観察対象者の社会貢献活動として、コロナ禍の中でも対策及び工夫すれば出来る活動があるのではないかとの要請を受け、安宅海岸の清掃活動を行いました。昨

年は大雨による災害が小松地区に発生したことから被災地区でのボランティア活動も視野に入れて検討していくたいと思います。実施時期は年内に活動出来るよう計画したいと思いますので多くの保護司の協力をお願いします。

この二年間、コロナ禍で活動の中止が相次ぐ中、広報の記事をどのような内容とするか苦慮しましたが、皆様のご協力により年二回発行することができました。

広報部会 新川 賢

部会では、更生保護や保護司について地域の方に広く知つてもらうように、まずは保護区の町内会長に広報誌を配布すれば良いのではないかとの意見が出されました。実現したいと思います。

保護司会活動のパートナー

小松地区更生保護女性会

「更生保護女性会会員になつて」

副会長 山川 美鶴

退職後に町内の会員の方から誘われ、具体的な活動内容が分らないまま会員になりました。理事会で決まった活動に参加していましたが、地区研修会で保護観察所企画調整課長から「更生保護女性会は、行く所行く所違つて自由に活動出来る組織団体である」と聞き、視野が拡がりました。

二年前に理事が新旧交代し、コロナ禍の中、現状を見直し「愛のかきやま」の由来を県連盟会長の前雅子さんからお聞きしました。理事会で何が出来るか話し合う中で、旧育松園を視察研修した理事から「施設内外にお花が無く、気持ちも暗くなつた。お花を届けられないか?」と提案があり、愛好花（敢て家を花に）の理事や会員の指導のもとお届けしました。社明運動推進パネルの今年度の標語は、"笑顔咲く優しい心で明るい社会"です。綺麗に咲いた色とりどりの花を見て、心が癒され優しい気持ちになり笑顔になつてもらえたと願っています。



能美地区更生保護女性会

「三年ぶりの総会開催」

会長 高倉 桂子

いつもなら、とりたてて活動報告として紹介することも余りない定期総会ですが、ここ二年間、開催を見送ってきた経緯もあり、今年度は役員一同、格別の思いで当日を迎えました。

特に今回は、これまでと趣向を変えて、記念講演に、「心に響く音楽の調べ」と題して、メゾソプラノの串田淑子さんと、ピアノの窪田理恵子さんをお招きしてコンサートを企画致しました。参加者はマスク着用のままでありますましたが、会場が一体となつての合唱は、コロナ禍の閉塞感も忘れさせてくれるような素敵な時間となりました。

これからも、急な対応を余儀なくされる活動が求められる事はあると思いますが、どのような事態が起きた場合、能美地区として進めてきた独自活動の歩みを止めることなく、特に会員同士の情報交換を密にして、アイデアを出し合いながら、心と心を繋ぐ更生保護活動の向上に寄与できれば幸いに存じます。



新任挨拶



能美多介央
廣見

自分は現在、六十六歳です。これまで、無我夢中で、仕事に追われてきました。気が付くと、もうこんな年齢になつて、という感じです。ですから、この度の保護司は、最後の公徳心のエネルギーを注ぐような気持ちでお引き受けしました。

当然、右も左も分からぬ状態ですから、少しずつでも、先輩の方々の活動についていきながら、勉強していくたいと思っていました。どうぞ、ご教導、よろしくお願い申し上げます。

なお、仕事柄、行事や会議に出席できないことがあります。あると思いますが、どうぞその点はご了承いただきたいと思います。

言い訳ばかりのごあいさつで、はなはだ面目的ないのですが、まずは、「活動に参加しながら勉強を

ます。白紙で、出来る活動を何でもこなして行こうと頑張っています。

小松能美地区BBS会

代表 北野 友希



BBS会の活動と県連の活動

今年度小松能美地区BBS会は、健全育成活動として行っている児童館活動については、どこの児童館もコロナ禍でイベントなどの規模を縮小しているので、今のところ活動計画も白紙で、出来る活動を何でもこなして行こうと頑張っています。

その他、県連では今、湖南学院の高校卒業認定試験に向けての学習支援活動を行っています。

BBSの各地区会は地区会の活動を行うだけではなく、県連の活動を地区会で請け負い、県連を運営する役割も担っています。

教育現場からの声

小松支部だより

能美支部だより

支部総会は、五月十日午後七時よりまちづくり交流センター大会議室で、構成員四十二名中十七名（委任状十五通）が出席して開催されました。支部活動は保護区と一体化しており、分区独自の活動や市関連団体との連携活動が中心になっています。令和三年度の決算報告、四年度の予算案、役員（会計）の欠員について（庶務が代行）、いずれも原案通り承認されました。十月には支部で保護司が定数より八名も不足となり、適任者確保が最重要課題になっています。

七月の社明運動では、昨年までの二年間人数を制限しての活動となっていましたが、今年は、能美市役所、川北町役場に分かれて関係の全保護司が総理大臣メッセージ伝達に参加しました。また、それぞれの庁舎には、啓発ブースを初めて設置していただき、来庁者への啓発に大いに効果を上げることができました。

能美支部は、諸先輩方が継続して発刊してきました機関誌「能美更生保護」が、今年で第五十号となることから記念号として発刊することになりました。例年より一ヶ月早く八月二日に広報委員会を開催しました。内容では、能美市長、川北町長、能美警察署長はじめ教育関係者、更生保護女性会、BBS会に寄稿していただいている。また、保護司全員が更生保護に関わっての感想、活動などを投稿することとしています。十二月の発刊に向けて、関係者の協力を得て編集作業を進めています。



川北町立川北中学校
校長
東口 幸央

「仁智・創造・自立」

これは、川北中学校の校訓です。本校では、この校訓を大切にし、少しでもこの校訓のような生徒に近づけるよう毎日の授業や生徒会活動、行事、部活動に頑張っています。さらに、今年度生徒会では、川中が輝く五つの目標（集中・全力・自立・あいさつ・思いやり）というスローガンを掲げ、生徒・教職員が「仁智」：他人のことを思いやり、ともに高め合う生徒、「創造」：物事に真摯に取り組み、必ずやり抜く生徒、「自立」：自分の行動に責任を持ち、信頼される生徒

います。一学期行なわれた川中 Sports Festival では、このスローガンを大切に、全校生徒が一つになり、最高に輝く瞬間を見せてくれました。これからも、これらを大切にし、川中がさらに成長していくことを楽しみにしています。そして、未来に向かって豊かな創造力と未知のこととにチャレンジする行動力を發揮できる生徒になつていて欲しいと思います。

編集後記

八月の集中豪雨により被災された方々にお見舞い申し上げます。コロナ禍の中、内外で信じがたい出来事が続いている。これが現実と受け止めるほかないのでしょうか。

今年の社明運動、一步前進です。この歩みを続けていきたいのです。発刊にご協力いただき、ありがとうございました。

※お問い合わせ 事務局
TEL0761-46-5105 FAX0761-46-5108
E-mail hogoshikai@aqua.plala.or.jp
URL <http://hogoshikai.org>

発行日 令和4年9月20日
発行 小松能美保護区保護司会 広報部会
印 刷 マルト株式会社

小松能美保護区保護観察件数等／8月1日現在の増減比較数

単位(件)

種別	1号	2号	3号	4号	生活環境調整
	家庭裁判所で保護観察処分を受けた者	少年院から仮退院を許された者	刑務所から仮出所を許された者	刑事裁判所で刑の執行を猶予され保護観察に付された者	保護観察前に要する身元引受人及び帰住環境の適否調査と調整作業
令和3年	4	0	0	9	16
令和4年	1	0	0	6	17
増減	-3	0	0	-3	1

最近の保護観察件数等の動向

保護観察事件は成人事件の割合が高く、全て男性である。また、生活環境調整事件は刑事施設入所者が16、少年院入院者が1である。男女比では男性14、女性2（いずれも刑事施設入所者）であり、男性が多い。